

救急搬送者を 一人でも減らすための 熱中症対策

吹田市 環境部 次長 楠本直樹

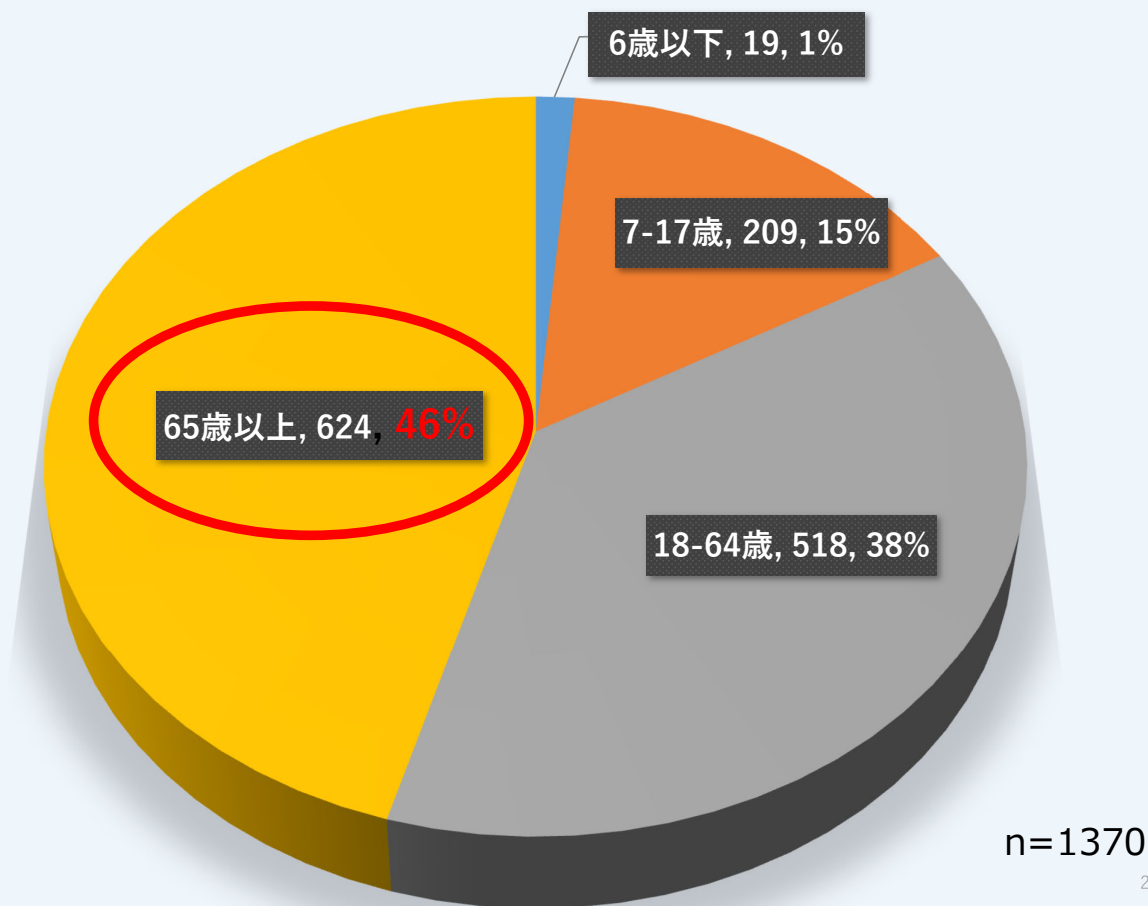
環境省のモデル事業 2019年度～



熱中症救急搬送者数（吹田市）（年齢別・傷病度別）

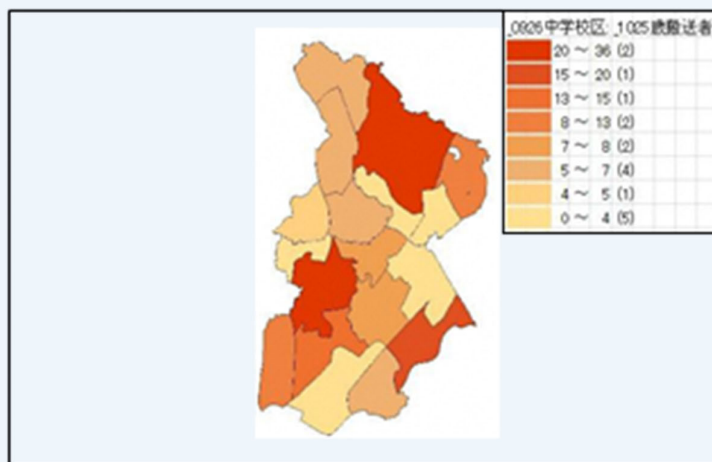
年度	年齢区分				傷病程度			搬送件数
	6歳以下	7-17歳	18-64歳	65歳以上	重症	中等症	軽症	
2023	4	27	95	131	1	33	223	257
2022	2	23	61	85	0	31	140	171
2021	1	8	36	49	1	18	75	94
2020	0	23	54	72	0	43	106	149
2019	2	29	57	61	1	33	115	149
2018	3	31	85	98	1	43	173	217
2017	2	23	33	38	0	16	80	96
2016	1	7	34	39	0	12	69	81
2015	2	29	49	34	0	18	96	114
2014	2	9	14	17	0	7	35	42

年齢別熱中症救急搬送者数 (吹田市) (2014-2023)

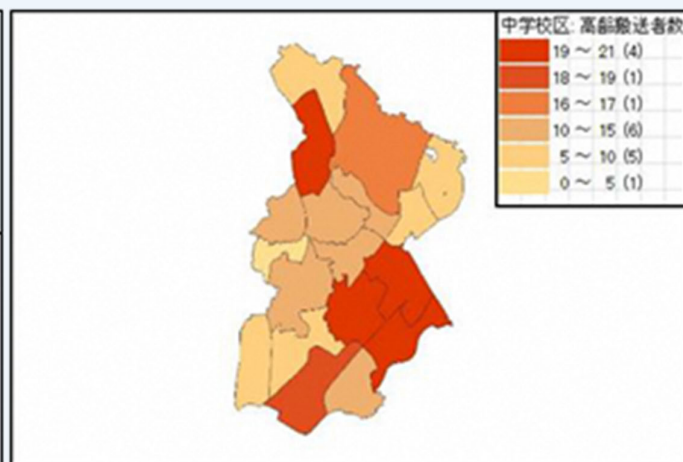


救急搬送者データの解析

高齢者、スポーツをする生徒・学生及び
万博記念公園の運動施設の熱中症発症リスクが高い



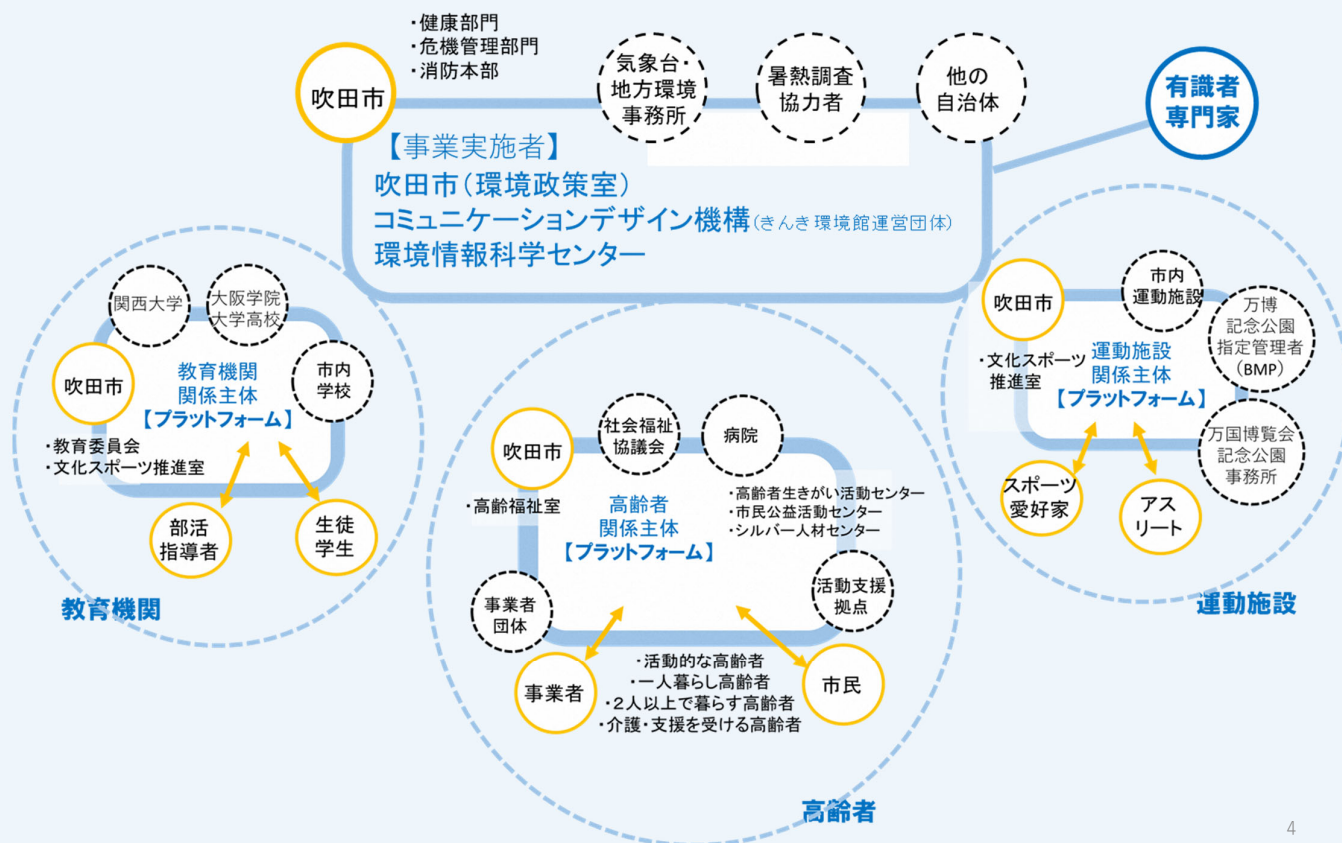
中学校区別搬送者 (10-25歳)



中学校区別搬送者 (65歳以上)

プラットフォーム会議の検討

(高齢者/学校関係者/運動施設)



高齢者のプラットフォーム会議

(啓発リーフレットに対する意見)

- 字が小さく、文章が多い
- エアコンの上手な使い方をPRする必要
- **高齢者の見守り・声かけが重要**



① 高齢者の熱中症予防対策講習会（6月）

ケアマネジャー等を対象に、熱中症の現状や知識、高齢者のための予防対策等について専門の講師による講習会を実施

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査（7月～9月）

ケアマネジャーが受け持たれている高齢者の居住地区、住宅の種別、年齢層、同居人の有無、エアコンの有無や日常的な利用の有無、エアコン以外の日常的な暑さ対策などの実状調査

③ 高齢者の介護に従事する方々との意見交換会（10月）

ケアマネジャーをはじめ、高齢者の介護サービスに従事する方に対して、熱中症対策に関するご意見を伺う意見交換会の実施

① 高齢者の熱中症予防対策講習会

【日 時】 2023年6月30日（木）

【場 所】 吹田市文化会館（メイシアター）

【対 象】 居宅介護事業所のケアマネジャーなど

【参加数】 89名

【講 師】 環境省 環境安全課 佐古 勇策氏
環境情報科学センター 石丸 泰氏

① 高齢者の熱中症予防対策講習会

【概要】

- ・ 熱中症対策の現状と課題 ・ 効果的な熱中症対策
- ・ 高齢者の熱中症予防に係る基礎知識
- ・ 暑さ指数（WBGT）の解説 ・ 法制度等の概要
- ・ 見守り機能の重要性 等

（参加者からの感想や意見）

- ・ 「有益」・「非常に有益」との回答
- ・ 高齢者の熱中症対策に係る基礎知識や効果的な対策を理解でき、介護現場で活かしたい。
- ・ 暑さを感じにくく、冷房の使用を拒否する高齢者への働きかけや、認知症の高齢者への熱中症対策に課題がある。

8

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

【実施時期】 2023年7月20日～9月15日

【回答者】 居宅介護事業所のケアマネジャー

【実施方法】 アンケートは2種類

- ・ アンケートA ケアマネジャーの業務に関する調査
- ・ アンケートB ケアマネジャーが担当する高齢者の熱中症予防に係る生活実態調査

【回答方法】 googleフォームや紙ベース

【回答数】 <アンケートA> 139件
<アンケートB> 1,504件

9

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

吹田市内の高齢者
90,237人

居宅介護支援を受ける高齢者
11,390人



アンケートA 4,324人
(アンケートに協力いただいたケアマネジャー
139名が担当する人数)

アンケートB 1,504人
(アンケートに協力いただいたケアマネジャー
が担当する高齢者から任意に選出)

10

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査



【アンケートA】

【アンケートA】

以下の問いについて、該当するものに○印をつけ、カッコ内に適当な数字等をご記入ください。

- ① 現在ご担当されている高齢者の数を教えてください。
()名
- ② 昨年、ご担当されている高齢者に熱中症を発症された方はおられましたか？
()はい→質問③へ ()いいえ→質問④へ
- ③ 質問②で「はい」とお答えになった方にお尋ねします。
何名くらい熱中症発症を確認しましたか？また、そのうち救急搬送された方は、何名くら
いますか？
熱中症発症 () 名くらい、うち救急搬送 () 名くらい
- ④ 質問②で「はい」とお答えになった方にお尋ねします。
熱中症を発症された方には、部屋の環境など、どのような環境・行動要因がありましたか？
※複数をおられる場合は、複数回答可。
() エアコンを設置していなかった () エアコンは設置してあるが使用していない
() 風通しが悪く高温多湿の室内にいた () 厚着していた
() ひとり暮らしで熱中症予兆を見守る家族・知人がいなかった
その他 ()
- ⑤ 居宅サービス計画書を作成するうえで、熱中症対策について相談を受けたことがありますか？
() ある→質問⑥へ () ない→質問⑦へ
- ⑥ 質問⑤で「ある」とお答えになった方にお尋ねします。
誰から、どのようなご相談を受けましたか？※複数をおられる場合は、複数回答可。
<相談者>
() ご本人 () 同居の家族 () 同居していない家族
その他 ()
- <相談内容>
() エアコンの使用 () エアコンの使用以外の住環境 () 水分補給
() 服装 () 散歩や買い物などの外出時の対策
その他 ()
- ⑦ 居宅サービス計画書を作成するうえで、熱中症対策に係り留意されている点があればご記入ください。

- ① 担当する高齢者の数
- ② 昨年、ご担当する高齢者に熱中症を
発症された方の有無
- ③ 熱中症を発症された方の人数
- ④ 熱中症を発症された方の状況
- ⑤ 居宅サービス計画書への熱中症に
係る相談の有無
- ⑥ 相談者と相談内容
- ⑦ 居宅サービス計画書を作成するう
えで、熱中症対策に係る留意点

11

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

【アンケートA】結果

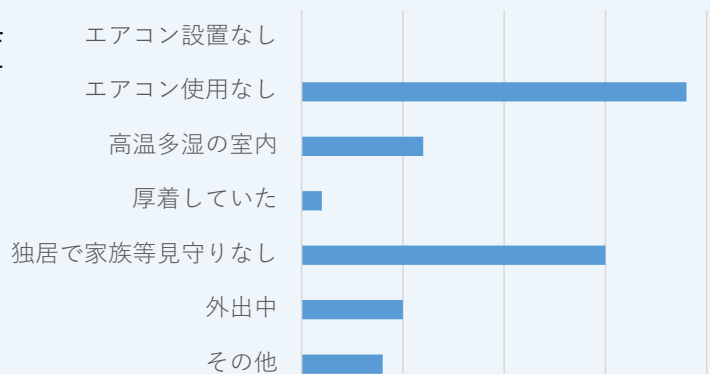
回答数 139件

担当する高齢者の熱中症発症状況

47名（内4,324人）の熱中症発症を確認
 （担当する高齢者の**約1%**）

→**22名が救急搬送**

環境・行動要因（複数回答）



熱中症発症の状況としては、「**エアコンを設置していたが使用していなかった**」「**ひとり暮らしで熱中症予防を見守る家族等がいなかった**」の回答が多く、外出中の回答もあった。

12

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

吹田市内の高齢者

85人（58人+27人） / 90,237人

居宅介護支援を受ける高齢者

58人（推定値） / 11,390人

アンケートA → **22人** / 4,324人

（アンケートに協力いただいたケアマネジャー139名が担当する人数）

居宅介護支援
非対象者

27人（推定値）
/ 78,820人

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

[アンケートA] 結果

吹田市で居宅介護支援を受ける高齢者の熱中症救急搬送の割合

	救急搬送 有	救急搬送 無
居宅介護支援対象者	58人 (推定値)	11,332人
居宅介護支援非対象者	27人 (推定値)	78,820人
計	85	90,152人

$$\text{リスク比} = \frac{58 / 11,390}{27 / 78,847} = 14.9$$

居宅介護支援を受ける高齢者の熱中症救急搬送の割合は、居宅介護支援非対象者にくらべて非常に高い。

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

[アンケートB]

[アンケートB] ※2ページあります

以下の問いについて、該当するものに○印をつけ、カッコ内に適当な数字等をご記入ください。

① 対象者の健康状態等について

年齢	<input type="checkbox"/> 60歳代 <input type="checkbox"/> 70歳代 <input type="checkbox"/> 80歳代 <input type="checkbox"/> 90歳以上	性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
介護レベル	<input type="checkbox"/> 要支援1 <input type="checkbox"/> 要支援2 <input type="checkbox"/> 要介護1 <input type="checkbox"/> 要介護2 <input type="checkbox"/> 要介護3 <input type="checkbox"/> 要介護4 <input type="checkbox"/> 要介護5	日常生活自立度	<input type="checkbox"/> I <input type="checkbox"/> II <input type="checkbox"/> IIa <input type="checkbox"/> IIb <input type="checkbox"/> III <input type="checkbox"/> IIIa <input type="checkbox"/> IIIb <input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> M
既往歴	<input type="checkbox"/> 高血圧 <input type="checkbox"/> 心疾患 <input type="checkbox"/> 認知症 <input type="checkbox"/> 精神疾患 その他 ()		

② 対象者のお住まいのおおよその場所、住居の種類・構造等

居住地	吹田市 () ※「丁目」までをご記入ください
住居の種類	<input type="checkbox"/> 戸建 <input type="checkbox"/> 集合住宅: () 階 その他 ()
居住年数	<input type="checkbox"/> 10年未満 <input type="checkbox"/> 10年以上30年未満 <input type="checkbox"/> 30年以上 <input type="checkbox"/> 不明
住所の構造	<input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄筋コンクリート <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 不明

③ 対象者の見守り状況

同居の有無	<input type="checkbox"/> 配偶者 <input type="checkbox"/> 子や孫 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 不明 その他 ()
近所で見守る人の有無	<input type="checkbox"/> 家族・親族 <input type="checkbox"/> 隣人 <input type="checkbox"/> 友人 <input type="checkbox"/> 不明 その他 ()

④ 対象者の熱中症の受診歴や熱中症に対するご関心など

熱中症の受診歴 (分かる範囲で)	<input type="checkbox"/> 熱中症で受診歴あり → 「あり」の場合、() 自宅療養 () 入院 () 詳細は不明 <input type="checkbox"/> 熱中症での受診歴なし () わからない
熱中症への関心	<input type="checkbox"/> 大変高い () 高い () どちらともいえない () 低い () 大変低い
「熱中症警戒アラート」の認知度	<input type="checkbox"/> アラート発着情報を入力して参考にしていない <input type="checkbox"/> アラートの存在は知っているが参考にしていない <input type="checkbox"/> アラートの存在を初めて知った
熱中症対策に関する情報入手方法 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット (スマートフォン) <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> 家族からの声かけ () 友人や近所の方からの声かけ <input type="checkbox"/> ケアマネージャー・ヘルパーからの声かけ その他 ()

★次ページに続きます。

⑤ 対象者の暑さ対策の状況

暑さ対策の自己管理	<input type="checkbox"/> エアコンの操作や他の暑さ対策を自分の判断でできる <input type="checkbox"/> エアコンの操作や他の暑さ対策を指示すればできる <input type="checkbox"/> 自分ではできないので、介護者が管理する その他 ()
日中等の暑さ対策	日中過ごす部屋のエアコンの設置有無 <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない 日中過ごす部屋の湿度計の設置有無 <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> エアコンを日常的に使用している <input type="checkbox"/> エアコンを日常的に使用していない () 不明
就寝時の暑さ対策	寝室のエアコンの設置有無 <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない 寝室の湿度計の設置有無 <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> オフタイマーなしで、エアコンをつけたまま寝る <input type="checkbox"/> エアコンのオフタイマーをかけて寝る <input type="checkbox"/> エアコンをつけたまま寝ることはない () 不明
エアコンを使用した暑さ管理	<input type="checkbox"/> オンオフは体感の温度で決めていない <input type="checkbox"/> オンオフは湿度計を見て決めていない その他 ()
エアコン以外の暑さ対策 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> うちわ・扇子 <input type="checkbox"/> 扇風機などの送風機 <input type="checkbox"/> 冷たい飲料の摂取 <input type="checkbox"/> 吸水性・透気性や風通しのよい衣服の着用 <input type="checkbox"/> 水浴び <input type="checkbox"/> 遮光カーテン、すだれなどで直射日光や打ち水などで外気温を下げる <input type="checkbox"/> 施設・店舗等のクールスポット利用 その他 ()

以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

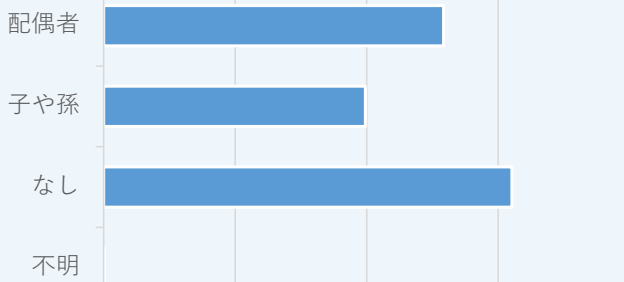
- ① 対象者の健康状態等
- ② 対象者のお住まいのおおよその場所、住居の種類・構造等
- ③ 対象者の見守り状況
- ④ 対象者の熱中症の受診歴 (過去) や熱中症に対するご関心など
- ⑤ 対象者の暑さ対策の状況

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

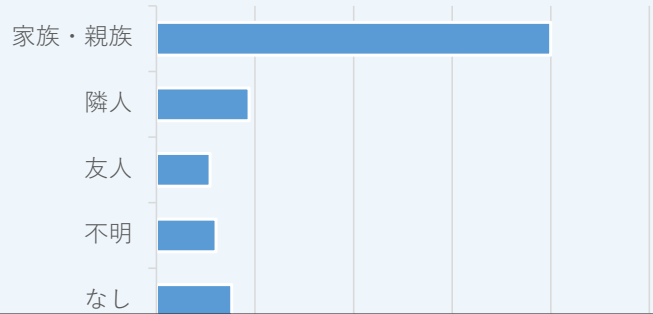
【アンケートB】結果

見守り状況

同居人（複数回答）



近所で見守る人（複数回答）

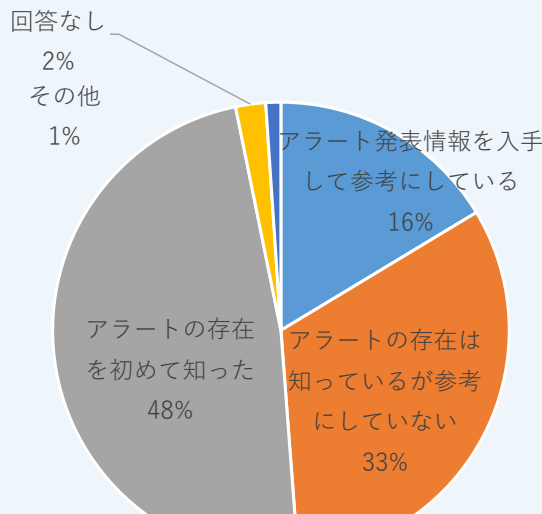


配偶者などの同居人がいる方が約60%、独居が約40%であった。
 近所で見守る人は、家族・親族が半数で、75%の方が何かしらの形で見守りの体制を構築していることが分かった。

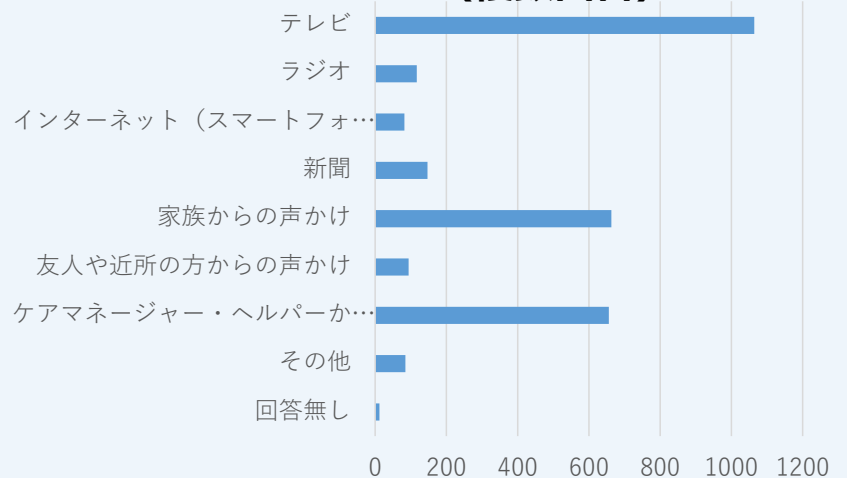
② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

【アンケートB】結果

「熱中症警戒アラート」の認知度



熱中症対策に関する情報の入手方法（複数回答）

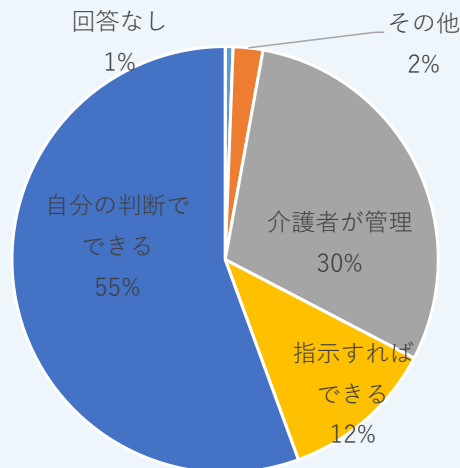


約半数が「アラートの存在を初めて知った」と回答
 情報の入手方法としては、「テレビ」が最も多く、次いで「家族からの声かけ」「ケアマネジャー・ヘルパーからの声かけ」が多い。

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

【アンケートB】結果

暑さ対策の自己管理



「エアコンの操作やその他暑さ対策を自分の判断でできる」（55%）と回答。一方「指示すればできる」（12%）「介護者が管理」（30%）のなかには、「すぐに消してしまう」「指示してもつけない」「時々暖房になっている」という声がある。

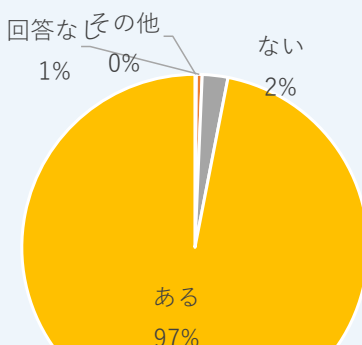
18

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

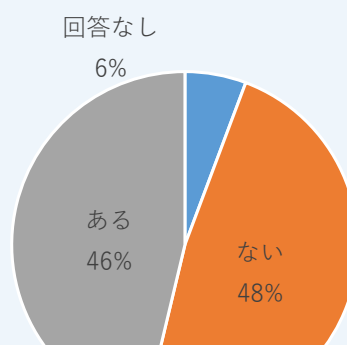
【アンケートB】結果

日中等の暑さ対策

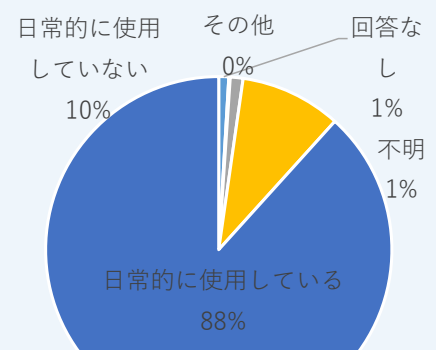
エアコンの設置有無



温度計の設置有無



エアコンの使用



エアコンの設置について、97%が「ある」と回答。温度計の設置について、「ある」「ない」がそれぞれ約半数。エアコンの使用は88%が「日常的に使用している」

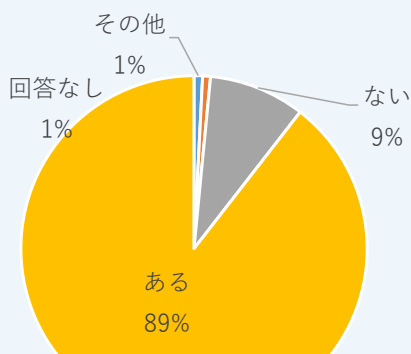
19

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

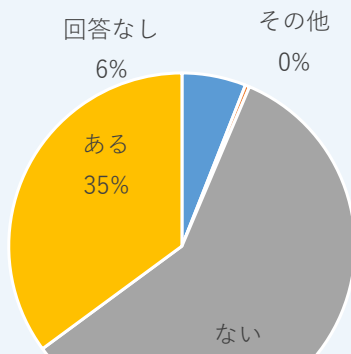
【アンケートB】結果

就寝時の暑さ対策

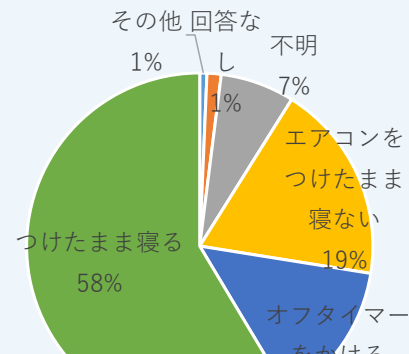
エアコンの設置有無



温度計の設置有無



エアコンの使用



エアコンの設置について、**89%**が「ある」と回答。
 温度計の設置について、「ない」が「ある」を上回った。

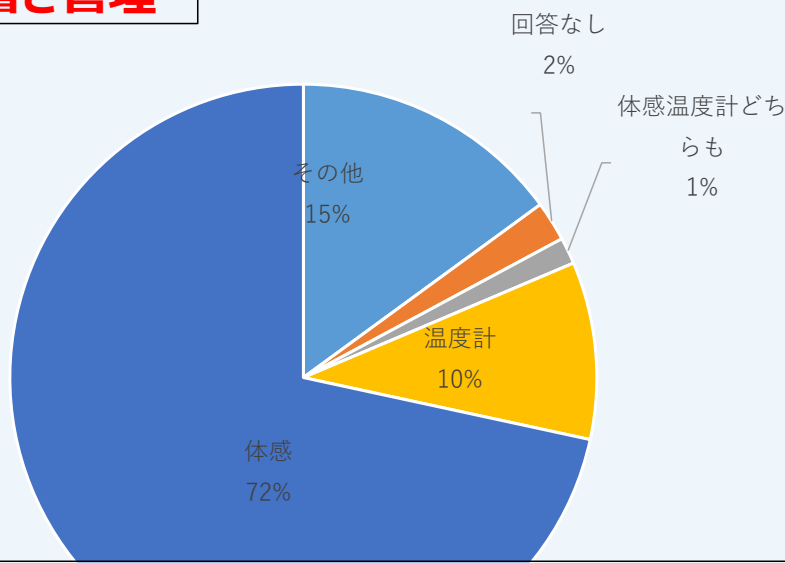
エアコンの使用は**58%**が「つけたまま寝る」、一方**19%**が「エアコンをつけたまま寝ることはない」

20

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

【アンケートB】結果

エアコンを使用した暑さ管理



エアコンの使用については**72%**が「体感で決めている」。

21

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

【アンケートB】結果（多重ロジスティック回帰分析）

解析方法

熱中症の受診歴の有無（目的変数）に及ぼす以下の要因（説明変数）の影響を解析した。

- ・ 年齢、性別
- ・ 要支援・要介護度
- ・ 自立度
- ・ 基礎疾患の有無
 高血圧、心疾患、認知症、精神疾患、糖尿病、パーキンソン病、腎障害
- ・ 住居種類
- ・ 居住年数
- ・ 同居者、見守りの有無
- ・ エアコンの管理
- ・ 日中・夜間のエアコン使用

結果の見方

オッズ比が1より大きく（小さく）、95%信頼区間が1をまたがなければプラス（マイナス）に有意の影響がある。

22

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

【アンケートB】結果（多重ロジスティック回帰分析）

年齢・性別・自立度等
回答数 1,504件

		オッズ比	95%信頼区間（下限，上限）
年齢	90歳以上	2.48	(0.52 , 11.86)
	70歳代	1.24	(0.25 , 6.23)
	80歳代	1.19	(0.26 , 5.57)
	50・60歳代	1.00	
性別	男	2.47 *	(1.43 , 4.27)
	女	1.00	
要支援・要介護度	要介護4・5	1.11	(0.38 , 3.24)
	要介護3	0.84	(0.31 , 2.32)
	要介護2	0.65	(0.29 , 1.46)
	要介護1	0.58	(0.27 , 1.25)
	自立、要支援1・2	1.00	
自立度	Ⅳ・Ⅲ	2.18	(0.50 , 9.44)
	Ⅲ・Ⅲa・Ⅲb	1.23	(0.41 , 3.75)
	Ⅱ・Ⅱa・Ⅱb	1.67	(0.89 , 3.14)
	自立・Ⅰ	1.00	

23

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

【アンケートB】 結果（多重ロジスティック回帰分析）

基礎疾患等

回答数 1,504件

		オッズ比	95%信頼区間（下限, 上限）
高血圧	有	0.73	(0.42 , 1.26)
	無	1.00	
心疾患	有	0.70	(0.35 , 1.38)
	無	1.00	
認知症	有	0.76	(0.37 , 1.56)
	無	1.00	
精神疾患	有	0.23	(0.03 , 1.76)
	無	1.00	
糖尿病	有	0.39	(0.11 , 1.34)
	無	1.00	
パーキンソン病	有	1.76	(0.45 , 6.90)
	無	1.00	
腎障害	有	1.36	(0.25 , 7.39)
	無	1.00	

24

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

【アンケートB】 結果（多重ロジスティック回帰分析）

住宅種類・居住年数

回答数 1,504件

		オッズ比	95%信頼区間（下限, 上限）
住居種類	施設	0.95	(0.48 , 1.90)
	戸建	1.10	(0.54 , 2.27)
	集合住宅	1.00	
居住年数	30年以上	1.73	(0.78 , 3.86)
	10年以上30年未満	1.57	(0.71 , 3.45)
	10年未満	1.00	
同居者	なし	—	(— , —)
	家族	—	(— , —)
	家族以外	1.00	
見守り	なし	1.03	(0.49 , 2.15)
	あり	1.00	

25

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

【アンケートB】結果（多重ロジスティック回帰分析）

エアコン管理・使用

回答数 1,504件

		オッズ比	95%信頼区間（下限，上限）
エアコンの管理	管理できない	1.16	(0.55 , 2.45)
	要見守り	1.77	(0.77 , 4.06)
	管理できる	1.00	
日中のエアコン使用	使用していない	0.58	(0.20 , 1.68)
	使用している	1.00	
夜間のエアコン使用	使用していない	2.08 *	(1.06 , 4.07)
	短時間使用している	1.36	(0.67 , 2.79)
	使用している	1.00	

26

② 高齢者の住環境や暑熱対策の実状調査

【アンケートB】結果（多重ロジスティック回帰分析）

まとめ

回答数 1,504件

吹田市の居宅介護支援を受けている方の熱中症発症に影響する要因		オッズ比	95%信頼区間
有意な結果	男性（vs 女性）	2.47	1.43~4.27
	夜間にエアコンを使用していない（vs 使用している）	2.08	1.06~4.07
有意ではないが、意見交換等で出された意見と整合する要因	居住年数：30年以上（vs 10年未満）	1.73	0.78~3.86
	自立度：Ⅱ・Ⅱa・Ⅱb（vs 自立・Ⅰ）	1.67	0.89~3.14
	エアコンの管理：要見守り（vs 自分で管理できる）	1.77	0.77~4.06

27

③ 高齢者の介護に従事する方々との意見交換会

【日 時】 2023年10月12日（木） 14:00～16:00

【場 所】 吹田市役所

【対 象】 居宅介護事業所のケアマネジャー

【参加数】 15名（5名×3グループ）

【概 要】 居宅支援が必要な高齢者の熱中症対策に係り、ケアマネジャーが動きやすい環境づくりに向けた現状打開策（**現在困っていることや、こうだったら、やりやすいなという意見**）を意見交換から抽出し、行政として動けることを検討する材料とすることを目的に開催。

③ 高齢者の介護に従事する方々との意見交換会

○エアコン使用の拒否、暑さに対する危機意識が低い

＜状況＞

- ・介護者がエアコンをつけても、本人がすぐに切ってしまう。
- ・本人が暑さを感じていない。夏でもセーターを着たり、ストーブをつけたりしている。
- ・介護者からの声かけや社会的な啓発の効果により、エアコンを適切につける方が増えた印象がある。
- ・扇風機がない家も多い。風があたることを極端に嫌う。



＜対策・意見等＞

- ・自宅では危険性が高いと判断し、夏の1～2ヶ月間、介護老人保健施設に入所して避暑をしていただいた。
- ・日中はショートステイと組み合わせて、室温管理がされている場所にいられるように工夫した。
- ・費用面や本人の希望で施設の活用が難しい方には、毎日誰かが訪問するようにして、室温管理を行った。
- ・**エアコンの設定温度を1℃上げてみたところ、エアコンを切ってしまう頻度が減った。** 29

○金銭的な問題によるエアコンの利用自粛

<状況>

- ・光熱費を心配して、エアコンの使用を控える方がいる。
- ・金銭的な問題でエアコンがない家もある。

<対応・意見等>

- ・エアコンをつけたときにかかる費用と、熱中症で入院した場合にかかる費用を比較して、どちらがよいかを本人に選択していただくような声かけを行った。



○認知症が少し進んだ方（日常生活自立度ランクⅡあたり）の熱中症対策

<状況>

- ・エアコンを切ってしまうないように、リモコンを隠しても、どこからか探し出してきて、正しく認知ができない状態でリモコンを触ってしまう（暖房になっている場合がある）。
- ・エアコンのリモコンを隠すと、椅子などを運んできてのぼり、エアコンのコンセントを抜いて消してしまう。

<対応・意見等>

- ・対応に苦慮！
- ・日中はデイサービスを利用するなどして、夏を乗り切った。



○ポスターやチラシによる熱中症予防の普及啓発



<状況>

- ・郵送で届いても見ない。
- ・市役所と医師からの情報だと関心を持ってくれやすい。
- ・口頭で説明しても頭に入らないので、チラシがあるとよい。

<対応・意見等>

- ・夏前にケアマネジャーの事業所に利用者への配布分をいただけるとよい。
- ・利用者の居室用に、室温によって色が変化する素材をつかってステッカーを作ると、視覚的なサインとして分かりやすい。
- ・ケアマネジャーから手渡しして説明し、冷蔵庫に貼るなどすれば捨てられにくく、効果的だと思う。
- ・学校や公民館などの公共施設のサイネージにWBGT値が掲示されるとよい。
- ・正しい熱中症対策を啓発できればよい。
- ・熱中症のチラシ等を回覧板でまわして啓発するのもよいのではないか。

32

熱中症
予防行動を
とりましょう!

熱中症警戒アラートをチェック!
NEWS!!
熱中症警戒アラート発表

見守り・声がけ!
熱中症に気をつけて

適切にエアコンを使おう!

こまめに水分・塩分を補給!

熱中症は誰でも危険! 油断は大敵です!

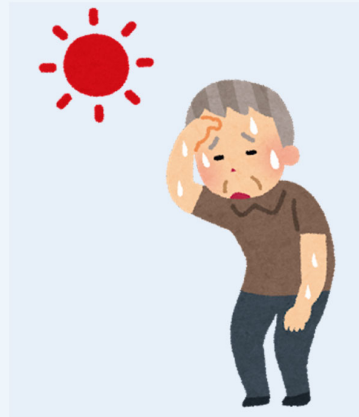
より詳しい情報は [熱中症予防情報サイト](#) 検索

冷蔵庫に貼る用 (A5)
回覧板用 (A4)

33

○その他

- ・介護者が関わっている場合は、見守り機能がしっかりしているが、**元気な高齢者の方が見守りがなくて熱中症発症が心配される。**
- ・体操教室や生きがいサロンなどの集まりに出て来られるコミュニケーションが好きな方は、様々な形での見守りがあるが、**この様な場に参加しない方、特に独居（特に一軒家）で、外部との接点が少ない方の熱中症の発症が心配される。**



34

まとめ1

- ・2023年度の調査結果からは、**介護支援を受ける高齢者**への対策を実施することが**効果的**であると判明。
- ・そのため、これらの**実状調査**や**意見交換会の結果**をもとに、高齢者が適切なエアコン利用の促進等など効果的な熱中症対策が図れるよう、2024年度は**支援者（ケアマネジャー）向けのガイドライン**の作成し、**7月中旬までに配布し**、ご意見をいただき、来年度に向け、更に**バージョンアップ**を図っていく予定です。

35

支援者（ケアマネジャー）向けのガイドライン（案）

熱中症発生状況	<ul style="list-style-type: none">・救急搬送人員の状況・死亡者の状況・エアコン設置有無
高齢化による身体の変化	<ul style="list-style-type: none">・体内の温度センサーの感度が鈍くなる・血管拡張・発汗能力が低下する・身体の水分量が減る
その他の体温調節に影響する要因	<ul style="list-style-type: none">・投薬によって体温調整が抑制される・機能障害により体温調整が抑制される
エアコンの適切な使用	<ul style="list-style-type: none">・エアコンを上手に使う・就寝時もエアコンと扇風機・温度計を確認する
水分、塩分の補給	<ul style="list-style-type: none">・日常的な飲水習慣
服装、部屋の環境	<ul style="list-style-type: none">・部屋に熱を入れない・身体に熱がこもらないようにする
見守り	<ul style="list-style-type: none">・熱中症の症状を知る・体温を測る、尿の色を確認する・地域の介護福祉ネットワークによる見守りの強化

36

まとめ2-1

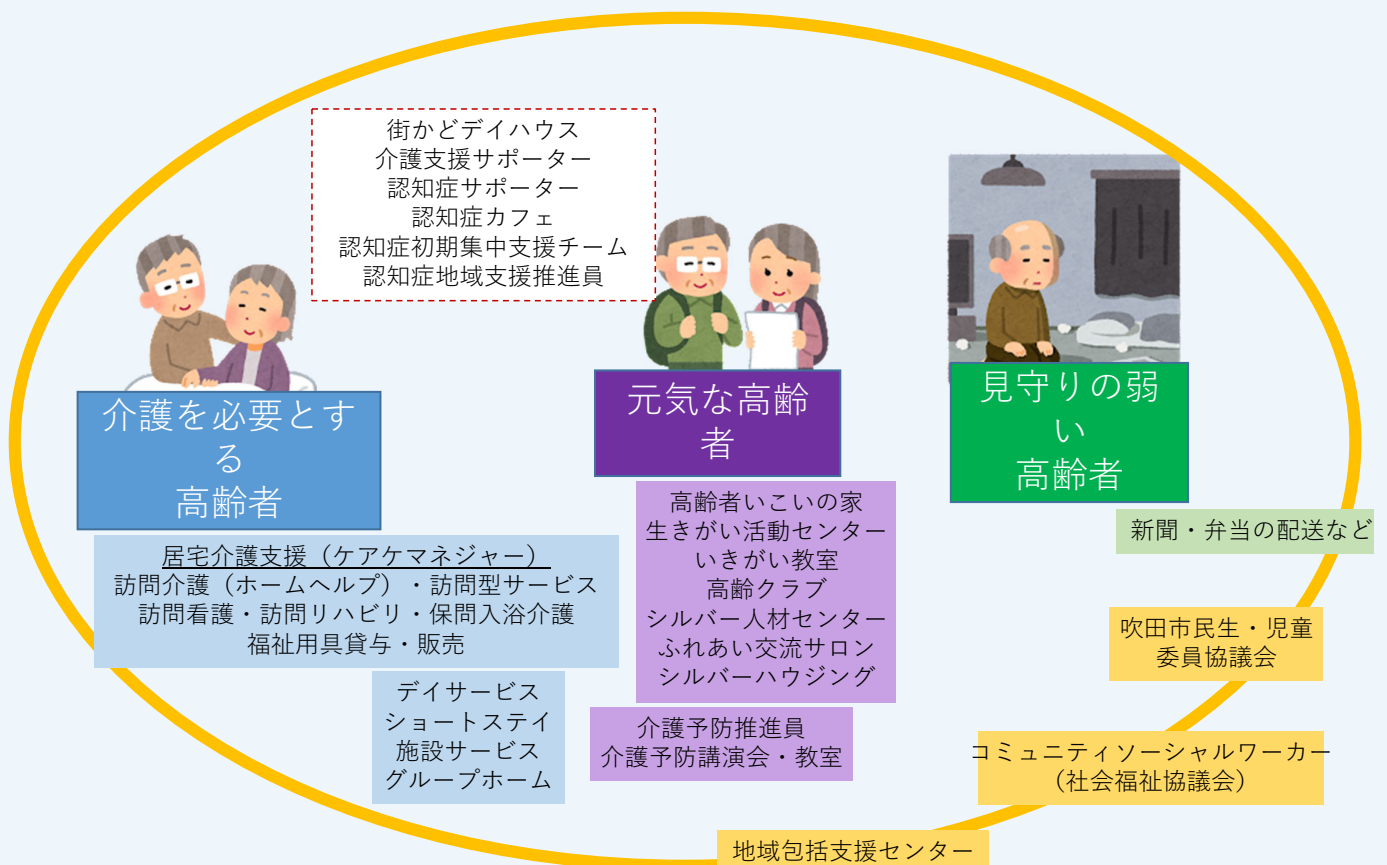


- ・熱中症対策の啓発については**対象者別にアプローチ方法**を変えていく必要がある。
- ・**市民全体**に対しては、**市報やSNS、回覧板**など様々な媒体を活用し、啓発していく必要がある。
- ・**学生**に対しては、**紙媒体ではなく、電子媒体**を活用する方が**効果的**である。

まとめ2-2

- 高齢者においては、元気な方から介護を受けている方まで様々な方がおり、高齢者を一括りにせず、各高齢者にあつた的を射た効果的な方法で啓発していく必要がある。

高齢者を対象とする熱中症対策見守りネットワーク イメージ (福祉部局へのヒアリングを参考に作成)



まとめ3

- 最後に、これまで蓄積してきた情報等については、すべて開示し、各自治体で活用してもらい、吹田市だけでなく、全国で一人でも救急搬送者を減らせるように取組を実施していきたいと考えている。

ご清聴ありがとうございました

吹田市 環境部
env-planning@city.suita.osaka.jp